

# スポーツエールカンパニーとして 「あやべ水源の里トレイルラン」を 特別協賛!



4月5日、全国から約1,000名が当社が本社をおく京都府のあやべに集結、「第4回あやべ水源の里トレイルラン」が開催されました。トレイルランは陸上競技の一種ですが、陸上トラックや一般道を走るマラソンとは違い、アップダウンの激しい山道などを駆け抜けながら自然と一体化するレースで、コースの設定や運営などたくさんの地元ボランティアの力で成り立っているものです。

日東精工は2021年から6年連続でスポーツ庁から「スポーツエールカンパニー」として認証されているように、スポーツ、そしてスポーツを通じた健康づくりに力を入れており、この「あやべ水源の里トレイルラン」についても、初回開催時から毎年、特別協賛をしています。

近年は全国各地でトレイルランの大会が開催さ

れていて、その大会運営などが参加者アンケートなどで評価されるのですが、この「あやべ水源の里トレイルラン」は、第1回大会で全国第2位の評価、そして一昨年、昨年はなんと連続で1位に輝いています。これはコースに設定されたあやべの里山の風景・自然の美しさと、そこに暮らす人たちを中心とするホスピタリティ（応援する真摯な姿勢やさまざまな心づかい）などが高く評価された結果です。この日本ナンバーワン評価は大会スポンサーとして大変誇りに思います。そして当社従業員もレースに参加したり、あるいはボランティアとして大会をサポートしたり……、またスタート・ゴール地点には協賛社ブースを設けてレース参加者や応援に来た家族の方々により楽しんでいただき、良い記念になるような仕掛けをご用意しました。



「第4回あやべ水源の里トレイルラン」には15kmコース、50kmコース併せて約1,000名が参加し、あやべの自然と里山に暮らす人たちのホスピタリティを満喫。当社代表取締役社長荒賀誠が特別スポンサーとして開会挨拶、当社招待選手のほか、当社従業員もレースに参加しました。また当社のブースでは記念撮影や抽選コーナーなどに加え、ご家族や友人がレースに参加した方へ手渡せる当社のねじ（シェアクロス）を使用したオリジナルメダルを手づくりいただけるコーナーも設け大好評

※本年、第4回大会もこれまで開催された大会で全国1位となっている



# 人を大切に、より働きやすい環境づくりを目指し 新たに「キャリア支援推進室」を設置しました

2026年4月1日 社員各位

**「キャリアサポートデスク」開設のご案内**  
キャリア支援推進室 井ノ元

このたび当社では、社員一人ひとりの主体的なキャリア形成を支援するとともに、安心して相談できる環境を整備することを目的として、「キャリアサポートデスク」を開設いたしました。本デスクでは、キャリアに関する悩みや不安、将来の方向性に関するご相談などについて、キャリアコンサルタントの資格を保有する担当者が中立的な立場で対応いたします。

■ キャリアサポートデスクの概要 ■


1. 相談内容 (例)
  - ・今後のキャリアプランに関する相談
  - ・現在の業務に関する不安や課題
  - ・スキルアップや自己啓発に関する相談
  - ・その他、働き方や将来に関する相談
2. 利用対象者  
全社員 (社員・嘱託社員・特別嘱託社員等)
3. 相談方法
  - ・メール: ○△□@nittoseiko.comにて申請を行ってください。
  - ・対面/オンライン面談 (事前予約制)
  - ・上司の許可をとって離席してください。
4. 対応時間  
平日 9時～16時 ただし原則 1ヶ月1回とします。(1回の相談時間45分以内)
5. 場所  
日東精工各工場の会議室または応接室 (オンライン可)

■ 利用にあたっての安心事項 ■

- ・相談内容は守秘義務を厳守し、本人の同意なく第三者へ開示することはありません。
- ・評価や人事考課に影響することは一切ありません。
- ・相談は任意であり、安心してご利用いただけます。
- ・社外のキャリアコンサルタントをご希望の場合は「京都府生涯現役クリエイティブセンター」のキャリア相談窓口をご紹介させていただきます。

■ メッセージ ■  
社員一人ひとりが主体的にキャリアを描いていくサポートを致します。  
ぜひお気軽にキャリアサポートデスクをご活用ください。

以上



整備しました。仕事に対する不安や悩みについて、たとえば、「自分が望むようにキャリアアップするために必要なものはなにか?」「こういう資格を生かすにはどうしたらいいか?」「家族が抱える問題と自分の仕事をどう調整すればいいか」など、上司や先輩、同僚などには話しづらい相談を中立的な立場で受けとめ、守秘義務を厳守したうえで対応しています。心理的安全性を担保しつつ、個人のキャリア形成を支援していくものです。

## 地域や業界の先進事例として貢献していく!

じつは、キャリアサポートを社内においているかどうかの公式な統計は未だなく、(上場プライム企業では10%にも満たないという数字もあるようです)、こういった当社の取り組みはまさに先進的なものともいえるでしょう。

当社では『中期経営計画Mission G-final』において、人財戦略も大きな柱の一つとしていますが、そもそも創業時より人財教育・人づくりに力を入れており、その取り組みは厚生労働省や経済産業省などの国やその他公的機関からも高い評価をいただいています。高評価のバックボーンにあるのは、現状に甘んじず、常により良いものに改善、更新し続ける姿勢です。

今回のキャリア支援推進室(キャリアサポートデスク)は発足させたばかりで成果が出るのはこれからですが、今後は各種セミナーなども実施予定です。当社のキャリア支援の仕組みが今後、当社の事業活動にプラスの効果をもたらすのはもちろんですが、地域や業界の先進事例としてもお役に立っていただければと願っています。

## 個人のキャリア形成を支援!

「キャリアコンサルタント」は国家資格を有する専門職で、職業選択や能力開発に関する相談・助言を行います。一般には学生・求職者を対象にするイメージが強いのですが、じつは企業のなかにあって在職者のキャリア相談という役割も担っています。職業能力開発促進法では〈事業主は、必要に応じ、雇用する労働者の求めに応じてキャリアコンサルティングの機会を確保すること、その他の援助を行うこととし、その場合には、キャリアコンサルタント(有資格者)を有効に活用するように配慮するもの〉とされています。

そこで当社では、今般、キャリア支援推進室を各事業本部から独立した組織として新たに設け、キャリアコンサルタントが従業員のキャリア相談に応えられる体制(キャリアサポートデスク)を



## 新製品「GeoJudge™」を プレスリリースしました

つい最近もクレーンが転倒して複数の死傷者が出る痛ましいニュースがありました。工事現場のクレーン転倒は台風や地震などの不測の事態もありますが、地盤の弱さ（支持地盤の沈下）に起因するケースが多く、本来なら地盤の硬さを計測してからクレーンを設置するのが望ましいのですが、現場で、「ここなら大丈夫だろう」というバイアスがかかって、ヒューマンエラーが起きてしまうことが少なくないです。

これまで地盤の計測には〈時間がかかる〉ということが大きなネックになっていたのですが、当社制御システム事業本部では厚生労働省所管の「労働安全衛生総合研究所（JNIOOSH）」協力のもと、「現場地耐力試験装置 GeoJudge」を開発・量産化に成功しました。1ヶ所の測定時間は約20分で、従来の検査にかかる時間をなんと約8分の1と大幅に短縮することができました。6月1日から発売となりますが、すでにプレスリリースを公開。以下QRコードから詳しい製品概要をご確認いただけます。



## 「2026 Sky grand prix in ASHIO」で 総合3位に入賞しました

国内だけでなく海外のワールドカップなどを転戦、活躍し、過去にはアジア大会で金メダルに輝くなど数々の好成績を収めている当社パラグライダー部の岩崎拓夫が、茨城県石岡市で開催された「2026 Sky grand prix in ASHIO」（3月20日～22日）にて総合3位に入賞しました。

岩崎はふだんは産機事業本部に所属し、ねじ締めロボットの開発業務に従事していますが、パラグライダーへの取り組みが仕事のオンオフの切り替えのいいリズムになり、またスポーツを通してさまざま

## 新入学児童の交通安全を支援 ランドセルカバーを綾部市へ寄贈

当社では今春、綾部市の全小学校の新1年生（約200名）を対象にオリジナルのランドセルカバーをプレゼントしました。これは新入生の子どもをもつ当社従業員の発案によるもので、カバーは綾部市のマスコットキャラクターの「まゆピー」と当社の「ねじとくん」が仲良く手をつないで横断歩道を渡るデザインとなっています。小さな子どもたちが車からも視認され交通事故を未然に防ぐとともに、子どもたちが交通ルールを理解し守っていくことを促し、そして地域の見守り意識の高揚にも寄与するものです。

4月3日に綾部市役所（綾部市まちづくりセンター）で寄贈式が行われ、当社取締役兼常務執行役員の松本真一が、綾部市の小林治教育長に目録を贈呈。発案者の岩城多希恵も地元新聞社の取材を受けました。4月8日から学期が始まり、子どもたちはかわいらしいカバー付きのランドセルに胸躍らせて学校に通っています！

写真上は小林治綾部市教育長（右）と当社常務松本真一。寄贈式には業界紙や地元紙も参加。発案者の岩城多希恵も取材を受けました（中央）。カバー付きランドセルを背負う新1年生（下）。



日東精工のロゴ入りのパラグライダーで空を舞う岩崎。左は表彰式後の記念撮影で右上が岩崎

な人との交流は視野を広げることにつながり、仕事にも役立っているといえます。

1ページの「あやべ水源の里トレイルラン」でも触れましたが、当社はスポーツエールカンパニーとして、これからもこういった活動を支援してまいります。

# 生きる言葉

代表取締役社長 荒賀 誠

**昨**年4月に刊行された倭万智さんの『生きる言葉』（新潮新書）がベストセラーになっています。今の若い世代がショートメールなどの文末に「。」（句点）があると圧迫（マルハラ）を感じることへの考察（日本語は『×』でなく『○』で終わる）があったり、「しゃべる家電」の声の変遷があったり……拾い読みしても、話のネタに使えるものが多くと好評のようです。

さて、その倭万智さんがNHKの大リーグ中継での解説者・斎藤隆さんの言葉遣いに感心されたというところが話題になっていました。同じことを繰り返すとき、「さつきも言ったように」と言いたくなる状況で、

斎藤さんは「さつきも聞いてもらったように」と表現された。それを耳にして倭さんが「柔らかな表現、聞き手への配慮。いいなあ」とXで呟いたところ、今度は斎藤隆さんのマネージャーがそれに気づきリポストして……というキャッチボールがあり、この呟きを125万超の人が閲読したようです。

昨今は「自分ファースト」「自国ファースト」という言葉を耳にするようになりましたが、相手を主体にする周囲の人もあたたかい気持ちになるということでしょう。

日東精工のモットーはお客様満足度120%、常にお客様のことを主体に考え、行動してまいります！

※『生きる言葉』は4月現在で発行部数19万部

## 「幸せ」を見つけるヒント 5月

### 二つのメディア

当社が本社をおく綾部市は人口3万を切った小さな市です。都会にあってここにはないというものも少なくはないのですが、この規模の都市で、ラジオ「FMいかる」と地域紙「あやべ市民新聞」の二つのメディアがあるのは珍しいです。どちらも地域の情報発信やコミュニティの絆を強めるための欠かせぬ存在で、「FMいかる」は緊急時、防災無線としての役割も担っていて、また週に3回各戸に配達される「あやべ市民新聞」は、高齢者世帯の見守りにもつ

ながっています。

新聞につきものなのが連載漫画。全国紙なら古くは「サザエさん」や「フジ三太郎」、今なら「コボちゃん」「ののちゃん」が有名ですが、あやべ市民新聞なら「となりのしかたさん」。その土地に生まれ育った人なら当たり前のことが、移住者目線では新鮮、「田舎あるある」が楽しめます！



日東精工代表取締役会長 綾部商工会議所会頭 材木正己

